



この度、岐阜工業高等学校と笠松中学校のボランティアの功績が認められ、「ボランティア・スピリット賞」を受賞しました。

「ボランティア・スピリット賞」とは、米国最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルが95年からアメリカにて開始した、地域社会に貢献している中学生・高校生のボランティアを支援する制度で、現在では、日本、韓国、台湾、アイルランド、インド、中国で開催されています。

岐阜工業高等学校は化学研究部が銀賞に当たるブロック賞を、笠松中学校は生徒会ボランティアグループが銅賞に当たるコミュニティ賞をそれぞれ受賞しました。

11月12日には、町内の2校同時受賞を称えて、W受賞報告会を開催しました。

笠松町では、平成19年

に「笠松町道徳のまちづくり条例」を制定し、道徳心を大切にしたい誇りと生きがいのもてるまちづくりを目指してきました。

「道徳のまち」を掲げる笠松町として、町内の中高生の日ごろの活動が大きく認められたことは、次世代を担う子どもたちを改めて宝であると感じる出来事でした。

ボランティア活動に輝く中高生が、笠松町に更なる活力を与えてくれました。



役場でW受賞を報告

かきまつの民話「昔むかし」

まといの松太郎 ⑤

バキッ、バキッと、にぶい音をたてながら家が傾く。いちばん高いところの松太郎は火の動きが手にとるようにわかった。「俺が最後まで、がんばらねばいかん」と心にいい聞かせ「もう、これまで。」とまといを振った。

柱がくずれたのか、倒れたのか、ガクンとくると、南に向って、大屋根が激しい炎を夜空に吹きあげ倒れ始めた。

松太郎は家が倒れる寸前に、西側の堀の方へ、大きく、輪を描いて飛んだ。

その瞬間、焼落ちる土蔵が松太郎の上をおおっているのが絵のように見えた。その時、リーン、リーン、という、まといにつけた鈴虫の音を、梅は耳にした。

その三日後、

「あの強い西風で、よく私の家だけですんだものね。お父さん、本当に松太郎さんには申し訳ないことをしてしまっただね。」

と言って、火事場をかたづけていた梅は鈴虫二個をひろった。大屋根でまといをふる松太郎の姿が、ふっと目の前に浮かび、見あげると、ぬけるように青い空であった。

(おわり)

